

拠点名称：災害など危機的状況から住民を守るレジリエントな広域連携医療拠点

代表機関	順天堂大学	プロジェクトリーダー	隈丸 加奈子 順天堂大学 大学院医学研究科 准教授
参画機関	千葉大学、山梨大学、群馬大学、福島県立医科大学 日本アイ・ビー・エム株式会社、InnoJin株式会社、ソーネットワークコミュニケーションズ株式会社、セイコーソリューションズ株式会社、ヴィジョンアーツリサーチ株式会社、清水建設株式会社、株式会社アインホールディングス、株式会社シード、株式会社ニコンソリューションズ、株式会社サンウェルズ、アマゾンウェブサービスジャパン合同会社、TIS株式会社、公益財団法人かずさDNA研究所、株式会社はくばく、NPO法人慢性疾患診療支援システム研究会、日本コントロールシステム株式会社、東京都、文京区、山梨県、南アルプス市、群馬県		

プロジェクトの概要

[背景] 本拠点では、東日本大震災および千葉県内の台風災害について住民の声を聞き取り、危機的状況による医療体制の崩壊や患者の転居により、従来の医療情報にアクセスできなくなることに加え、被災者は被災による直接的なストレスだけではなく、様々な環境ストレス（マルチストレス）に晒され、心身の健康に長期的な影響が残ることを明らかにしてきた。

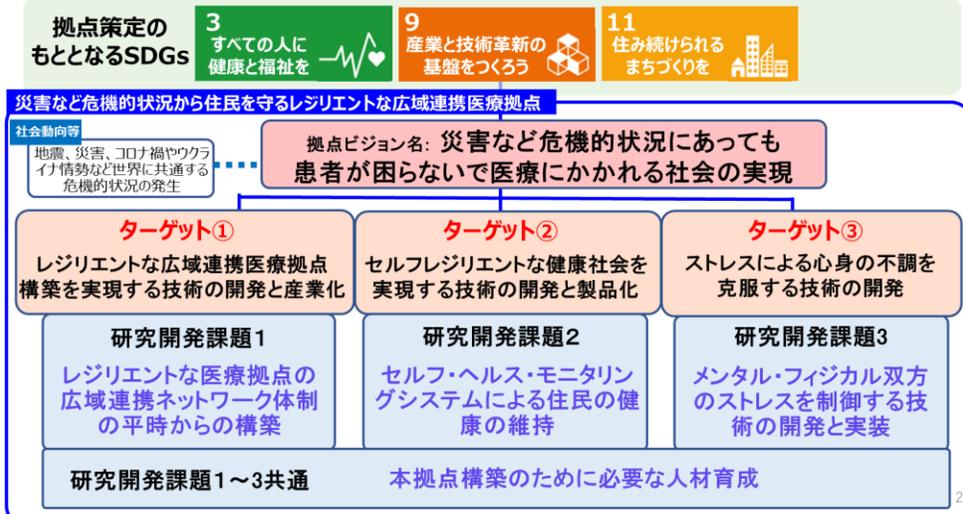
[目的] 本拠点では、災害など危機的状況にある患者や住民が困らずに医療を受けられる社会の構築を目指し、5大学が連携し、レジリエントな広域連携医療拠点を構築するための技術、及び心身のストレスを克服する技術を開発する。

[3つの研究開発課題]

- 1) レジリエントな医療拠点の広域連携ネットワーク体制の平時からの構築
- 2) セルフ・ヘルス・モニタリングシステムによる住民の健康の維持
- 3) メンタル・フィジカル双方のストレスを制御する科学的研究と実装

本提案から災害時に強く平時にも住民の健康に寄り添うための新たな医療モデルと革新技術の基盤を開発すると共に、本拠点の構築のために必要な人材の育成を行う。

災害など危機的状況から住民を守るレジリエントな広域連携医療拠点：ビジョンとターゲット



災害時に強く、平時にも住民の健康に寄り添うための新たな産業と革新技術を開発すると共に、3つの課題横断的に本拠点の構築のために必要な人材を育成

- ・地震や異常気象、大規模事故、コロナ禍、ウクライナ情勢といった災害、パンデミックや戦乱などの危機的状況は想定外の規模で頻発しており、平時から継続的に準備する
- ・本拠点では地域・企業と強固に連携のうえ、平時にも利用可能な技術開発と産業化を行い、資金、知、人材の循環によるサステイナブルな拠点を形成